

埼玉育ちのグローバル人

学び続ける者のストーリー

第2回 「中国・上海に来て、

自分は島国にいたと痛感」

平成23年度 「埼玉発世界行き」奨学生

長 拓実 さん



(1) 自分の専門を生かして海外で働く

「海外で学校の先生ってできないのかな?」。そんな疑問を抱いたのは大学院修了まで残り1年となった頃でした。インターネットで手探りに調べてみたところ、日本語を教える先生ではなく、日本人学校で学校教員として働ける可能性があることを知りました。日本人学校というのは、簡単にいうと、海外で生活する日本人の児童生徒が海外でも日本の教育を受けることができる場所です。幸運にもその年には、家庭科専科教員を募集していた学校がありました。それが、私が勤務した上海日本人学校の虹橋校という1000人規模の小学校でした。

(2) 日本人学校での勤務

私は上海日本人学校で2年間、家庭科専科教員として5・6年に家庭科を教えました。日本人学校での授業は、もちろん日本語で行われます。また、家庭科等の教科書も日本と全く同じであり、調理実習室や被服実習室といった設備も基本的には日本と同じ仕様でした。

全国各地から熱心な先生方が集まっていたので、日々勉強する毎日で仕事はとても楽しかったです。大変だったことは、家庭科の実習準備でした。たとえば、エプロン作りをしたいと思っても、日本で販売されているような制作キット等は購入できませんでした。そこで、学校事務のスタッフの方と一緒に布市場へ行き布を仕入れたりしました。また、調

理実習では、お味噌汁作りをするにあたり煮干しを探したのですが見つからなかったため、昆布とかつお節のだしでお味噌汁を作りました。



上海で食べた火鍋

(3) 上海での生活

私は守衛が24時間常駐し、高い塀に囲まれた敷地内にある住宅で生活しました。広さは日本で一人暮らしをした時の3倍以上あり、日本のテレビもリアルタイムで視聴することができました。

住み始めた頃は、タクシーを使って買い物に行っていました。15分程の乗車時間でも利用料金が300円と日本よりも安かったからです。徐々に、運賃がさらに安いバスや電車も使えるようになったのですが、一番よく利用したのはレンタル自転車でした。なんと、歩道に無数の自転車があり、アプリでQRコードを読み取ると30分1元(約17円)で利用できます。例えばデパートまで自転車で行

った場合、デパート前の歩道に邪魔にならないように自転車を置き、ロックを掛けて清算が終了となります。

私が住み始めた 2016 年には、すでに電子マネー決済システムが流布しており、携帯アプリで出前を注文すると宅配してくれるサービスや友達に電子マネーでお金を支払うこともできました。他にも、電動キックボードや名探偵コナンのスケートボード型バイクのようなものも街中で頻繁に見かけました。日本でも徐々に上述したサービスが一般化してきましたが、それらはすでに中国で広まっていたのです。

ナダへ渡航した時の話をしたいと思います。



外灘 (わいたん) の夜景

(4) ますます高まる学びたい気持ち

上海での生活は本当に楽しく、とても快適でした。契約延長も可能でしたが、当初の予定通り 2 年間で日本人学校での勤務を終えることを決断しました。この頃の私は、やはりスウェーデンの教育をもっと勉強したいという思いがあったので、まずはスウェーデンの大学へ進学しスウェーデン語を学ぼうとしました。しかし、そのコースを受講するために必要な英語のレベルは TOEFL90 相当だったので、当時の私には少し勉強の時間が必要となりました。そこで、英語力に磨きをかける目的を達成すること、さらに学生時代の夢であった英語圏での生活を実現するため、ワーキングホリデー制度を用いてカナダに行くことを決意しました。

次号では、ワーキングホリデー制度を利用しカ